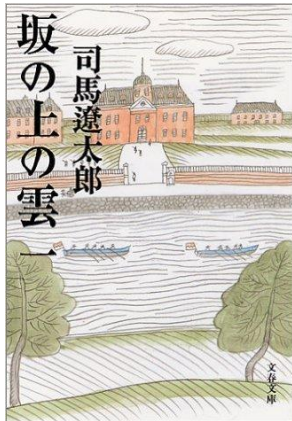


# 図書館へ行こう！

～いつも読みかけの本を！ 雨の多い季節がやってきます。鬱陶しい空模様が続くこの時期は、室内で過ごす時間が多くなります。そんな時、いつも本を一冊そばに置いておくようにしましょう。読みかけの本が常にあることで、皆さんの人生が少しずつ豊かになっていきますよ。

## 先生方おすすめの本

### 数学科 実昭先生のおすすめ



#### 司馬遼太郎『坂の上の雲』

前半は、愛媛に生まれた秋山好古、秋山真之の兄弟と正岡子規の若い3人の交流がすがすがしい。

田舎で深い友情に包まれ、夢を語り合い、それぞれがその夢に向かって生きて行く。

自分の夢通りにいかないこともある。夢を追いながら病に阻まれることもある。

若い3人はその人生に踏み出して行く。

後半は日露戦争の描写が中心となる。戦争はあってはならないことだが、小説の世界では、旅順攻撃、奉天会戦、そして日本海海戦は面白い。全編わくわくするものがある。

しかし戦争はむなししい。多くの若い命がむなく散った。

### 国語科 首藤雄一朗先生のおすすめ

#### 井上章一『京都ざらい』

中学2年生では関西地方に修学旅行へ行きます。大阪、奈良、京都。特に京都での自主研修を楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか？

しかし、折角行くのならば前準備をしっかりした方が楽しめますよね！

ガイドブックや路線図など

もいいですが、京都の意外すぎる一面を知ることのできるこの本はどうでしょうか？ 夢見心地で巡る京都も楽しいですが、リアルな京事情を知ってからだとまた一味違いかもしれませんね！



「おすすめ」原稿は、生徒図書委員が先生方へ直接依頼するかたちで集めています。

快くお引き受けくださり、図書委員一同感謝申し上げます。

## 夢にむかって頑張っているみなさんに、おすすめしたい本があります。

今日は閲覧室カウンターの下段の本棚を紹介します。

ここには、大手予備校の講師陣らが推薦した図書を中心に集め、特に推薦入試や小論文に役立つ知識や考え方が詰まった厳選図書を揃えています。

大学入試を控えた受験生諸君にはもちろん、将来の夢が無限に広がる皆さんにとって、この棚の本はすべて必見! といっても過言ではありません。小さな棚ですが、夢に近づくためには最強の本棚です。

まずは1冊手に取ることから始めましょう。



- ① メディアに映し出されているものは現実のほんの一部で、真実はひとつではない。大切なことは正しく見聞きして考えることだ。
- ② 医師と患者のコミュニケーションは異文化交流？なぜ患者と医者の会話は嗜みあわないのか、臨床と医学教育に長年携わった筆者が迫る。
- ③ 人口減少は希望ある転換点となるのか？人類史のなかに人口減少社会を捉え直し、持続可能な福祉社会へのコミュニティ経済を提言する。
- ④ 介護する家族、自宅介護と施設の入入れ、臨床の最前線、高齢者を包むまちづくりー「認知症と社会」の問題を克明に取材。
- ⑤ 大学のあり方が大きく変わる中、親世代の常識が通用しなくなっています。今「迷い」の中にいる子供たちへ、そして親たちへ。

この他にも、様々な分野の図書が70タイトル以上並んでいます。利用してね。



前回の図書館だよりで紹介した『蜜蜂と遠雷』は、本年度の本屋大賞の受賞作でした。今日は、過去の本屋大賞も含めたさまざまな文学賞の中から、皆さんが親しみやすいと思われる3つの賞について紹介します。

賞を取っているからといって、読者のすべてが「素晴らしい」と感動するかどうかはわかりません。しかし、一定期間に発表された数ある小説の中から厳しい審査をくぐり抜けた一等賞の作品であることには間違いありません。

ここでは、受賞作の中で学院図書館に所蔵している本の中からいくつかを掲載します。一度手に取ってみてくださいね。

何冊読みましたか？ 「本屋大賞」の本。

本屋大賞とは・・・本屋大賞は、新刊書の書店(オンライン書店も含みます)で働く書店員の投票で決定するものです。過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。(本屋大賞HPより)

受賞作品が決まるたびにメディアで取り上げられ、あっという間にベストセラーに躍り出る本屋大賞。今年度で14回目を数えるそうです。

学院図書館にも、その受賞作品すべてが入っています。皆さんは何冊読んだことがありますか？



読んだことがありますか？ 「芥川賞」の本。

芥川賞とは・・・純文学の新人を育成しようと、新人作家の作品を対象に創設した賞。(『ポプラディア』より)

※純文学とは・・・大衆文学に対して、純粋な芸術を指向する文芸作品、殊に小説。(『広辞苑』より)



どれだけ知っていますか？ 「直木賞」の本。

直木賞とは・・・大衆文学※の発展を願って、新進もしくは無名の作家の作品に与えられる賞。(『ポプラディア』より)

※大衆文学とは・・・純文学に対して、大衆性をもつ通俗的な文学。推理小説・剣豪小説・家庭小説・ユーモア小説などをいう。(『広辞苑』より)

